

平成30年度 尚恵学園の基本

【Ⅰ】尚恵学園のモットー「理念」 『 共生 』

★自分の力で生きて、働いて、友と寄り添い助け合い
共に良かったと感じたい。

良きサービスを通じて 利用者の心を打つ満足を提供！

創意・工夫・責任・まごころをもって限りない挑戦。★

【Ⅱ】運営の基本的な考え方。“常に挑戦者であれ！”

今般の社会福祉法人制度改革によって、経営組織の強化や運営の透明性、地域における公益的な取組が求められている。昨年は法人内で在り方検討会を組織し 検討を重ね自分達の進むべき方向を探った。2年目は 地域の方にも検討に加わって頂き 地域にあって望まれる姿を議論し、その共有をはかり具現化を進めていく年である。

これは 尚恵学園が61年間続けて来た障害を持つ人たちとの実践を礎として その基本を大切にしながら 時代ニーズに対応した 新たな挑戦への再スタートの年となる。

今年は 日本型福祉サービスの転換期と言われている。それを示す施策の一つとして『共生型サービス』という新たな概念の登場で これは従来からの制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や多様な主体が『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで 住民一人ひとりの暮らしと生き甲斐や地域をともに創造していくことである。その実現には 様々な課題があり、その解決には 法人が総力を挙げて向き合う姿勢と覚悟が必要条件となる。

それには風通しの良さと分かり易さに皆が努め お互いの信頼関係を築くことが 挑戦者たる事業体には望まれるのです。

【Ⅲ】平成30年度の重点実施項目。

1 組織の強化

- (1) 社会情勢や法制度の変化に対応すべく 組織や事業内容の検証を行い そこで明らかになった事を積極的に見直しを行い、組織の活性化を図る。
- (2) 研修や資格取得を推進し人材の育成に力をいれ 資質の向上と意識改革を図る。

2 地域福祉のニーズに応じた事業展開。

- (1) 誰もが安心して暮らせる地域づくりとその人らしく生きることができる目標に向かい 何ができるかを常に意識し その実現を目指す。
- (3) 旧成人寮敷地の有効活用は望まれるニーズに対応したものであるべき。それと法人全体の設備の充実・強化を図る。

3 時流に則したサービスの見直し

- (1) 利用者の高齢化に対応するため「共生型サービスの指定」を受けて、障害福祉と介護保険サービスの円滑な利用促進への調査検討。
*国の明確な方向性を見極め 1年をかけ指定の是非を検討する。
- (2) 就学前の児童発達支援の必要性に鑑みて、実施可能なサービスの事業化に向け調査検討する。

我々を取り巻く現在の状況は 2つの喫緊な課題がある。それは多様な事業主体の参入による競争の激化と「支え手」としての良き人材の確保である。

そこに今回のサービス体系の改正によって 我々と介護事業や保育事業との競合が加わる。この先 この国の社会保障の仕組みがどのような形になっていくか 現時点で何とも言えない。ただ難しい舵取りが要求されることは間違いない。

【IV】事業継承の条件

我々が目指してきた 障害がある人たちの安心と喜び、「住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられるようにする」との取り組みは 時代がどう変わろうと変わることがない人としての権利である。人口の減少や高齢化の流れが今後一定期間は続くとして、その中で、事業を継承していくには、日頃からの努力と実績の積み上げが必要です。そしてサービスの質の向上が顧客の満足度を高め 地域に無くてはならない事業体と認められることが条件になります。

これは 単に事業拡大をはかることでは無く 地域のニーズに即応した地道な活動の積み重ねが成されて初めて 可能になることであると思います。